

<協同のひろば>

愛知県高齢者協同組合設立への取り組み

内田 基大 (愛知県高齢者協同組合理事長)

1. 必然にせまり高齢者協同組合を

愛知の高齢者事業団は1974年2月10日、60才以上の一般高齢者15人でスタート。1985年頃までは100人前後の規模で運営してきました。1985年に失対の年齢線引きが導入され70歳以上が排除、1年ごとに1歳ずつ切り下げ90年には65歳以下、95年度で失対の全廃が答申された。

愛知ではこの間、失対・任就から放り出された仲間を事業団で吸収、失対での将来展望が断ち切られる現状を熟慮し、1990年度に愛知県、名古屋市、豊橋市、岡崎市から一定事業を事業団委託とし、働かねばならない150人位の仲間の就労確保をして来ました。

以来、事業・団員の拡大運動を展開し現在600人を越える団員になっている。

一方、高齢者ゆえ退団も多く、家族と相談をして引退していく仲間はまだ良いが、体力・能力の限界で皆んなと一緒に働けなくなった仲間が増えていく中、退職させざるを得ない状況になり、その事を言わなければならない幹部の胸中。家におれない仲間、身寄りのない仲間は、明日からどうしたら良いのか、お金はいらないから現場に置いてほしい……実に心苦しく・悲しく・切ない思いをしてきました。

「長生きしよう」「頑張ろう」と、いつも言ってきた仲間を追い出すというこの辛さ。

明日の我が身であり、日本社会の高齢者全体の問題として悩んでいたが、1993年5月第14回全国総会(松本)での基本方針、高齢者協同組合の設立が決定されました。1年以内に全国で10ヶ所、定款・規約は連合会本部で立案し、次ぎの総会に提出。愛知では、1993年6月第19回総会で方針決定をした。当面1000人の組合員結集と毎月100円会費を積んでいくことにし取り組んできた。

この年の12月27日に準備会を発足、内部でのたまり場会議と組合員拡大は少しづつ取り組んだが外にむけては、一部に「メリット論」も出てなかなか思うようには浸透しないで数カ月が過ぎた。

翌年の1994年9月、センターでの高・協発足における社会的に大きな関心と展望を掴むことができ、愛知の670万県民に占める高齢人口70万人以上の高齢者の先頭に立って一苦労する覚悟をした。

2. 大規模な取り組みの変更をして

センターでの教訓から今までの方針、95年4月設立、1000名目標と出資金があまり明確でなかったことを反省し、94年12月の第2回準備会総会で方針の転換を打ち出した。

設立は95年9月15日敬老の日とする。目標を2000名、出資金1口5000円、呼びかけ賛同人を100名以上、高齢者事業団員は1人が3人拡大と目標を明確にして取り組みを進めた。

◇ 迫りくる高齢者社会を、狭い事業団内の運動から全県的運動にしなければならない事業であるとし、賛同人を広げる活動から開始した。

名古屋大学総長、前総長、愛知医科大学前学長、本山元名古屋市長、弁護士、民主団体、労組のOBや、著名人、町内会長、老人会長など100余名の賛同人を得ることができた。

◇ 加入者2000名のとりくみでは、今までの、団員が自分ともう1人を拡大という消極姿勢を改め、1人が2～3人、力量のある団員は一人でも多く働きかけをしていくこととし、出資金の内金として1人1000円づつ預かる、又、団員は出資金2口・1万円とし毎月の報奨金より積み立ててきた。

理事会・職場長会議を毎月開き、123運動・6～8運動の中心課題とし、足踏みしている職場を

励まし課題と位置を改めて確認して取り組みを進めてきた。

あいち労協では、若年者が多く高・協づくりの意志統一の困難さも続いた。

◇ 理事会は、この123運動でそれぞれの職場単位の目標を示し、点検・追及を進めた。

常に諸行動やよい仕事の先頭に立って活動している鶴舞公園、名城公園、中村公園などの市の中心3現場では、2～3カ月ぐらいで目標達成し、本部と2事業所に張り出されている拡大グラフ表では、月3回づつ確実にグラフに上積みされていき、高齢者事業団「なかま」の新聞でも必ず発表をしてきた。これがよい刺激と競走結果をもたらした。

一方、事務局職員もなかなか一歩踏み出すことができずにいたが、中心メンバーが家族・親戚・知り合いへと拡大を始め、職員も拡大一覧表を事務室に張り、これも又刺激となり30名の職員も本格的に組みだした。中には、今年採用の新人女性も、卒業した大学へ説明に行き成果を得た。

あいち労協では取り組みが大きく遅れたが、度々の理事会での討論を通じ、やがて自分にも高齢期が来ることを悟り、まず両親に話しかけることから始め、加入拡大が進められた。

◇ 私たちが運動を進める中で直面した問題は、メリット論「加入したら何の見返りがあるのか」と言う問いかけでした。

就労希望者には高齢者事業団で働く事が可能ですが、そうでない人には当然の事なのかも知れません。私たちは、相手の方と話合っ中で、多くの人に高・協の必要性を説明し、「加入してよりよい高齢者社会をどう築いていくか、知恵や力を貸して欲しい。一緒に創りませんか」と答えてきました。この中で平行して高齢者むけ文化講座を開設し、サークル活動も重視してきました。

3. 準備金体制

1993年の高齢者事業団第19回総会で92年度剰余金より500万円を高・協の準備金へ。

94年第20回総会で93年度剰余金より500万円。

95年第21回総会で94年度剰余金より300万円。合計1300万円を用意し、不十分ながら設立総会までの資金として充当させる事ができました。

4. マスコミ・宣伝対策

高齢者団員によるビラ・チラシの配布行動は常日頃から取り組まれており、今回も呼びかけビラ、8月25日の大イベント、9月15日の設立総会に向け数万枚が団員の手で繁華街、駅頭、団地等に配布された事と、8/25・9/15に関してビラ20万枚を一番シェアの多い中日新聞に折り込みをした。

また、テレビ6社、新聞5社にも2回以上の取材申し入れを行い、記事が載るつど一般の人達からの問い合わせが50～60回づつ続く状況でした。

メッセージの要請行動では、全国的に長寿で有名な名古屋の「きんさん・ぎんさん」から声のメッセージ。名古屋出身の女優・竹下景子さんにも心のこもった祝辞を頂き、鈴木愛知県知事と西尾名古屋市長からも激励のメッセージが寄せられました。

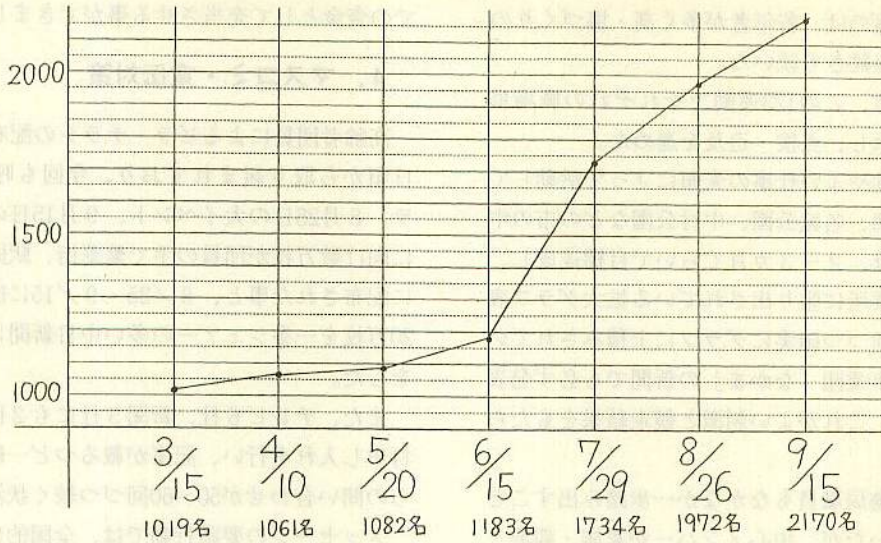
設立総会は、以上のような1年9カ月余の準備努力と連合会本部の物心両面にわたる適切な指導と援助により迎える事となったが、地域で行事の多い敬老の日、さてどれだけ参加してくれるのか。こんな心配はまったく無用でありました。

合唱団サボテンのうたごえも高らかに……、オープニングがはじまり会場はいっぱいの人々で溢れていました。

愛知の高齢者協同組合の旗揚げを迎える事ができました。

心から全国のみなさん、地元のみなさんに御礼を申し上げます。

高齢者協同組合加入登録者数



高齢者協同組合拡大状況

9月15日現在 愛知県高齢者就労事業団

現場・班名	組合員数	拡大総数
鶴舞公園	17	83
稲永公園	19	71
名城公園	17	87
中村公園	5	23
大江川	6	32
県営公園	10	44
ペンキ班	5	15
保育 加藤班	8	34
保育 永井班	8	29
ビルメン	18	65
黒石荘	5	23
桃花台	2	3
八事パト	8	38
八事花がら	4	14
庄子班	9	40
竹内班	10	43
肥田野班	9	43
沢田班	13	27
樋口班	10	47
深沢班	8	26
木山班	8	45

現場・班名	組合員数	拡大総数
長谷川班	10	24
木村班	7	25
日比班	6	26
山田班	6	9
丹野班	5	34
坂平班	10	30
今田班	6	27
西島班	6	12
河合班	10	11
搬出	12	42
民間1	17	76
民間2	17	66
高峯荘	13	60
剪定A	5	20
剪定B	6	15
職安	9	24
岡崎	17	86
豊橋	22	119
尾張センター	30	73
事務局	29	161
高齢者合計	442	1772

あいち労協	225	65
一般		333
総合計	667	2170